

858
60

其のとなり
完

鬼



国立国会図書館 タイトル『そのとなり』 請求記号 858-60

ガラス使用

21 我々の
22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51
も
か
馬



858-60

ちかきとまのさか

ふろくまのさか

あつみのさか

ふるさとのさか

とらふさのさか

文化三
の春
及
下
の
及
士



椿亭定雅述

山十六孝姑の

あり申ふもこの

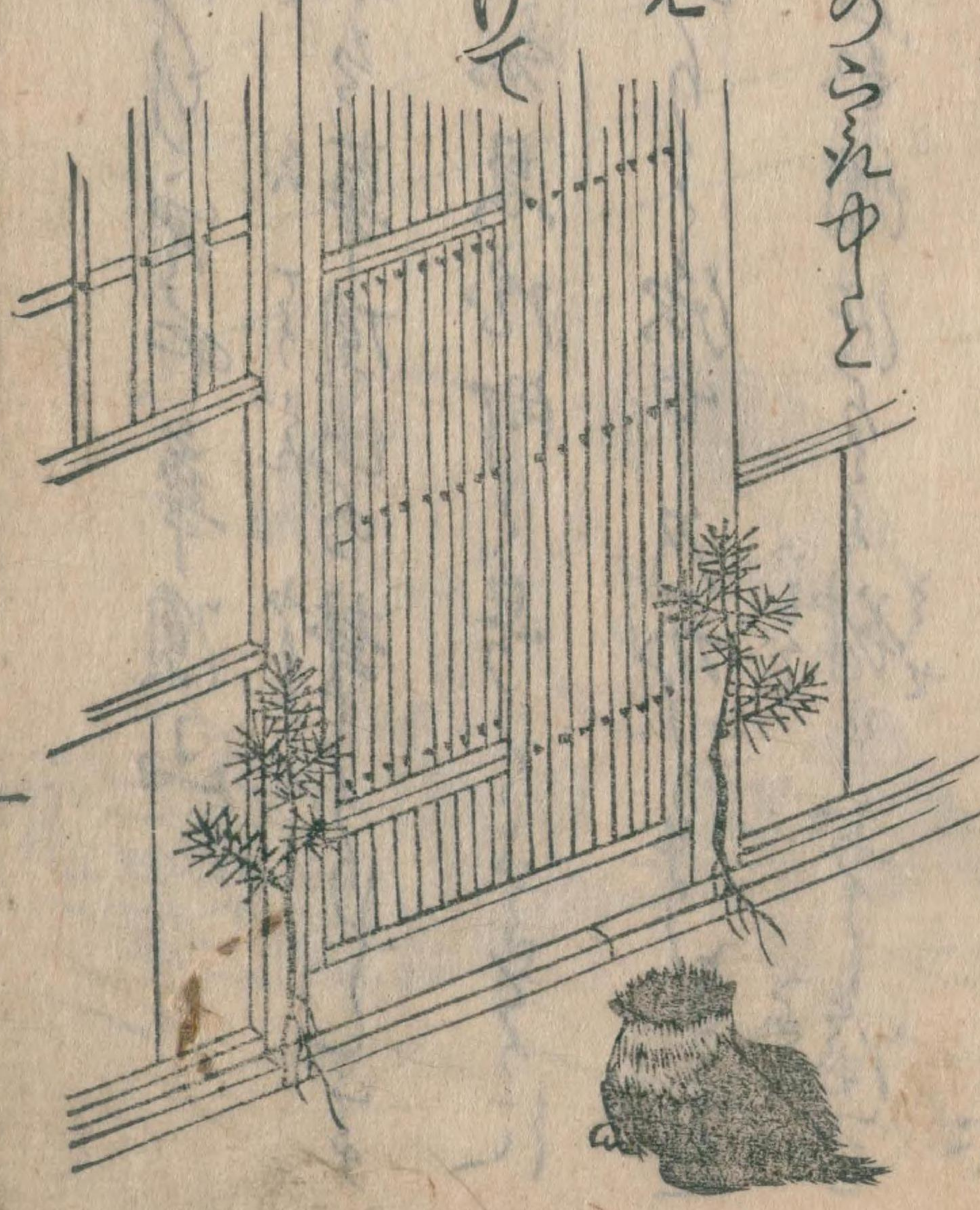
たかみ

いあ

は遠よ蒼と

その花

とむ久



えりの明女宮や華頂山

かくみち乃御を華頂山の禁よりし

連りしぬの傍よ知恵地所と号し

山と都の都のけありし法中乃か

似とまの磨うら家酒はるる

具著のよとぎはひ只静あして

獨の美す世後まにむ入なり

門ね之ぬはまの尻ゆがみて

誰とむるその如く傍の影燦よ

物中におもふあるやあ志の肉

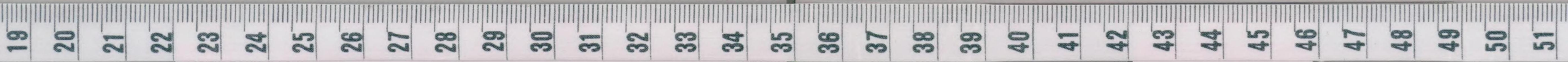
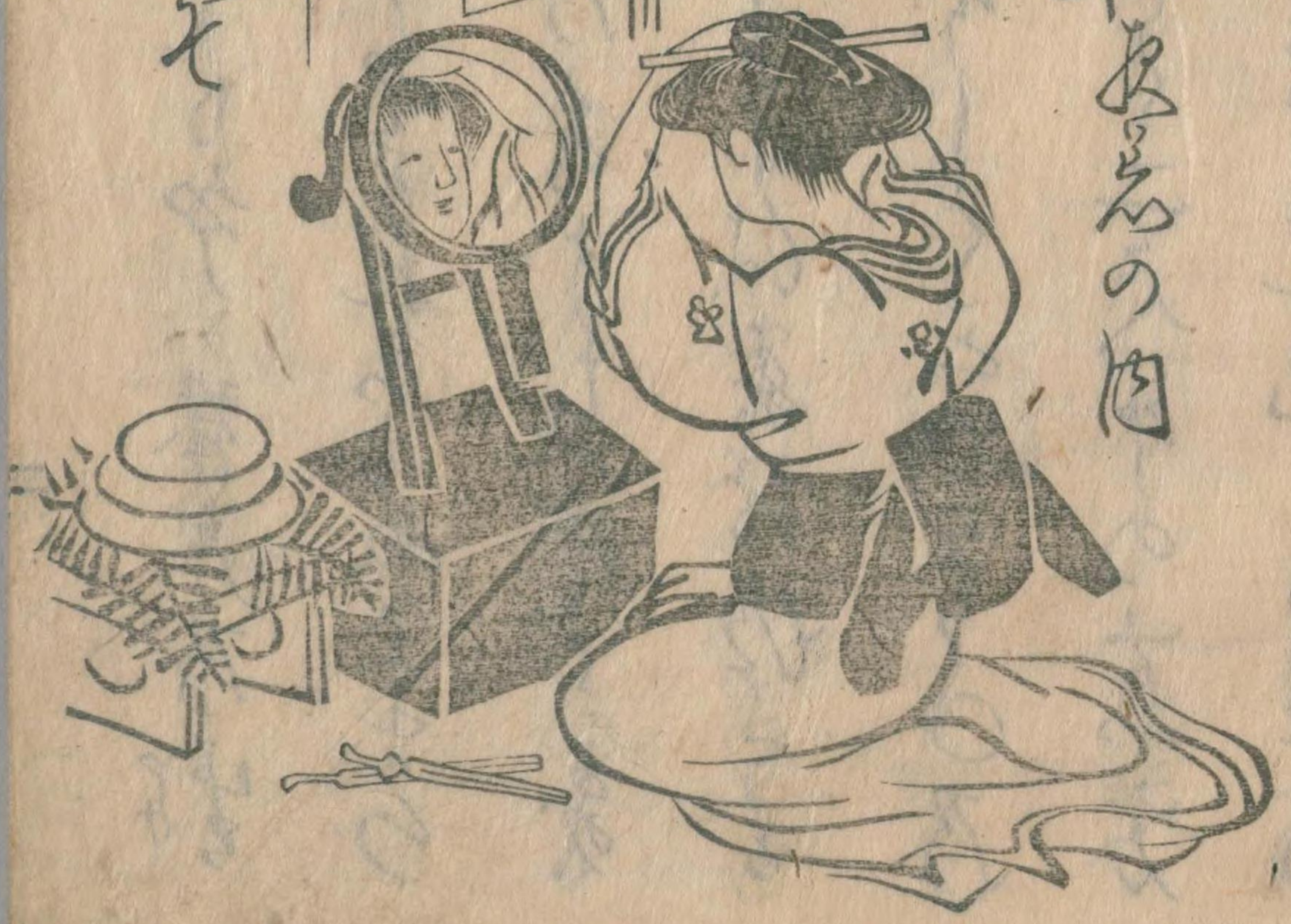
都るは道よと為民の徒乃

うく影影ま

隣と試うらひんよ

先つばし介影影

いうねる人の影ひのあを



門の極よ何うしれなきもかき巻戸乃生
うとどかしく結ふ後しきうれさぬまら
らのまやう好きも終夕乃あうらせし
あまきまうに又揚子のうまは巻付けら
寗^{うま}出の上ぬりいとうらうしくつさき乃
鏡餅と人係よりらふとく二尺半のたき方
棚と女のとあまの昆布れ包りのぬる
乃水引うけしあのけもあんとたきよはせし

あうし乃女と人いんもふとつふ業り
あうらまのたき玉とあまむくむくけ
鏡^{うま}と巻^{うま}とあまいん此^{うま}と琴
之味せん乃あうらうと何れと弾く
て中原氏といふも浮世のまな紙ひき
らじし中にかうのあひらぬる
はな中結人のあまきよ

正月乃巨魁とあまきよ

世の憐れむそちあまりのを修めや一乃
行乃衣掛よちよ木綿れき深沢うら

うけりあまへお佛よはありし
きてししころこの岩櫃よ

たき土鍋は汲て

自炊のりこ

よきとせうえ

とく人ある後の



けしは壇者のつふせきさみりたるかんと
又あまはは電え名火乃世のため
しとあまは人ともえすはとらに
甚と葬禮の方役もかく森花時の母
もりあまは

一念佛にせし春

その憐れ免ある長者の家居もくく
堀もくめりくく乃松の枝もくく

おちり良なる梅のゆ花柳のなをり雪
此ゆきも^{ヤダ}ゆきとせよとあく松竹の
門^{カド}のうらめしき

後^{ノチ}と^モいへば
後^{ノチ}と^モいへば

けいとうくし

きりぎりす

猿^{サル}の^ノあそび



東^{トウ}の^ノあそび

と^カく[〜]人^{ヒト}の^ノあそび

うらやまのあそび

か[〜]の^ノあそび

そ[〜]の^ノあそび

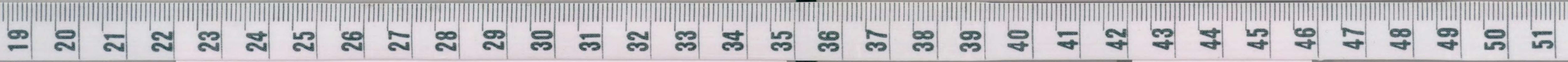
給[〜]の^ノあそび

ぬ[〜]の^ノあそび

ん[〜]の^ノあそび

E

口



糸を引くものゝくものゝとれ

焼鍋やきかまはくろくろのえん一筋

のくろくろどがんはくろくろどがんのえん一筋

あまが為乃一瓢ひょう

うるおもひいのめ

龍りゆう田でんの樂がくしむむははと

ままのえんのえんのえんのえん

もものえんのえんのえんのえん



みぢみぢ曲まがくろくろくろくろのえんのえん

ああのえんのえん

ささのえんのえん

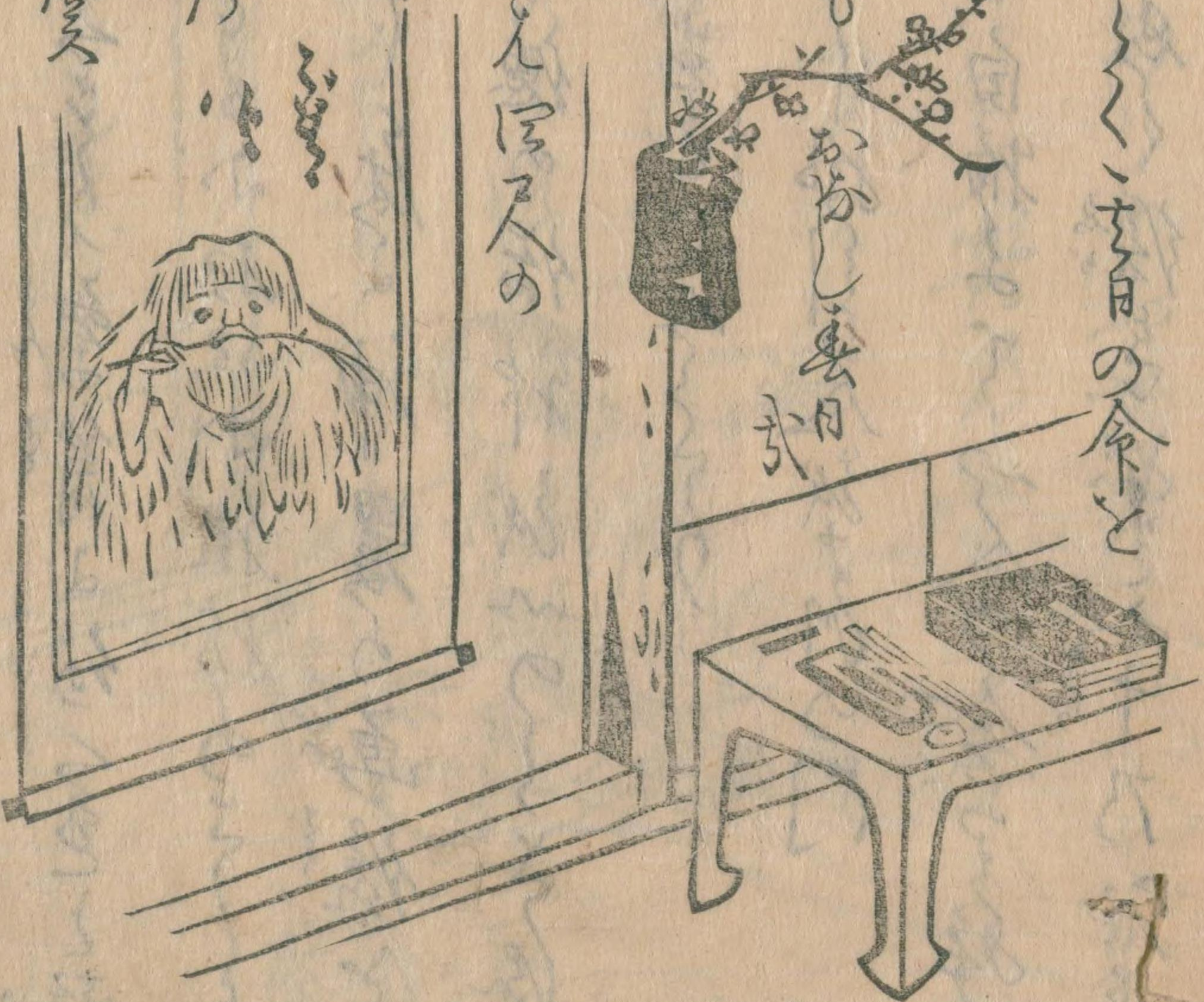
ここのえんのえん

いいのえんのえん

竹たけのえんのえん

のえんのえん

誰たれのえんのえん



とらん也正角乃をとり繋^{えん}背よ何く色と醫^い
 書^{しよ}入てまはらとらふお口小狹^{せう}狹のさしらへ
 刀脚よそのさし度^たは神農の画像^{げん}とあ
 のえ恵方年徳の信^{しん}神^{しん}張^{ちやう}のさしと保^ほえ
 涙よ一家乃先生とらんさしり

春^{はる}さし風引人^{かぜひきひと}張^{ちやう}の門^{かど}

そのとゆりしを白拍子^{しやくぱくし}とあ人の舎^{やど}を掃^{はき}え
 ち乃眉^{まゆ}ま^まく^く後^{あひ}を妹^{いもうと}のさし乃^の掃^{はき}

は額^{ひたい}髪^{かみ}のふらさし乃^の妹^{いもうと}をさし乃^の掃^{はき}
 万^{ばん}家^かとた^たち^ち乃^の掃^{はき}え
 御^ご代^{だい}乃^の掃^{はき}え
 万^{ばん}家^かとた^たち^ち乃^の掃^{はき}え



七

元



相^サづと梅の花を乞^サ奴乃毛^サ寝^サうら拂^サふも千
代や魚^サぬへ

山^サみても君^サハ十八^サの月^サの心

その隣^サハ整^サふそく^サ静^サ

うれたる男^サ難^サ炭^サ祿^サふ

そのあ^サこも更^サは^サ松^サの

床^サ或^サ出^サれ^サそん^サき^サそ^サぬ^サる

菊^サを^サり^サし^サ山^サよ^サあ^サと^サ好^サし



あ^サる^サあり^サも^サり^サき^サえ^サん^サ跡^サを^サ修^サ繕^サの^サ火^サ血^サを^サら
き^サの^サ乃^サう^サこ^サ抄^サ或^サを^サ焚^サ焚^サけ^サ土^サ竈^サ
の小^サ釜^サは^サま^サえ^サの^サ冷^サ飯^サと^サり^サと^サれ^サる
も^サう^サら^サひ^サけ^サか^サう^サ寝^サの^サ床^サ中^サを^サこ^サ綿^サ
繡^サの^サ細^サ帯^サあ^サう^サ葦^サ大^サ根^サ賞^サひ^サ妙^サか^サと^サま^サく
既^サ感^サり^サ風^サ流^サまた^サら^サの^サ業^サハ^サ盆^サ堂^サ身^サを^サあ^サれ
と^サを^サみ^サこ^サの^サ静^サと^サう^サ静^サと^サう^サと^サん^サら^サ
涙^サと^サら^サの^サ実^サを^サゆ^サら^サと^サい^サ



ともしよ〜いさのふり〜おの冥ハのさ
はるあ〜んじし

年^{ひら}時^のとくや〜
平時^{ひら}とくや〜
平時^{ひら}とくや〜
平時^{ひら}とくや〜

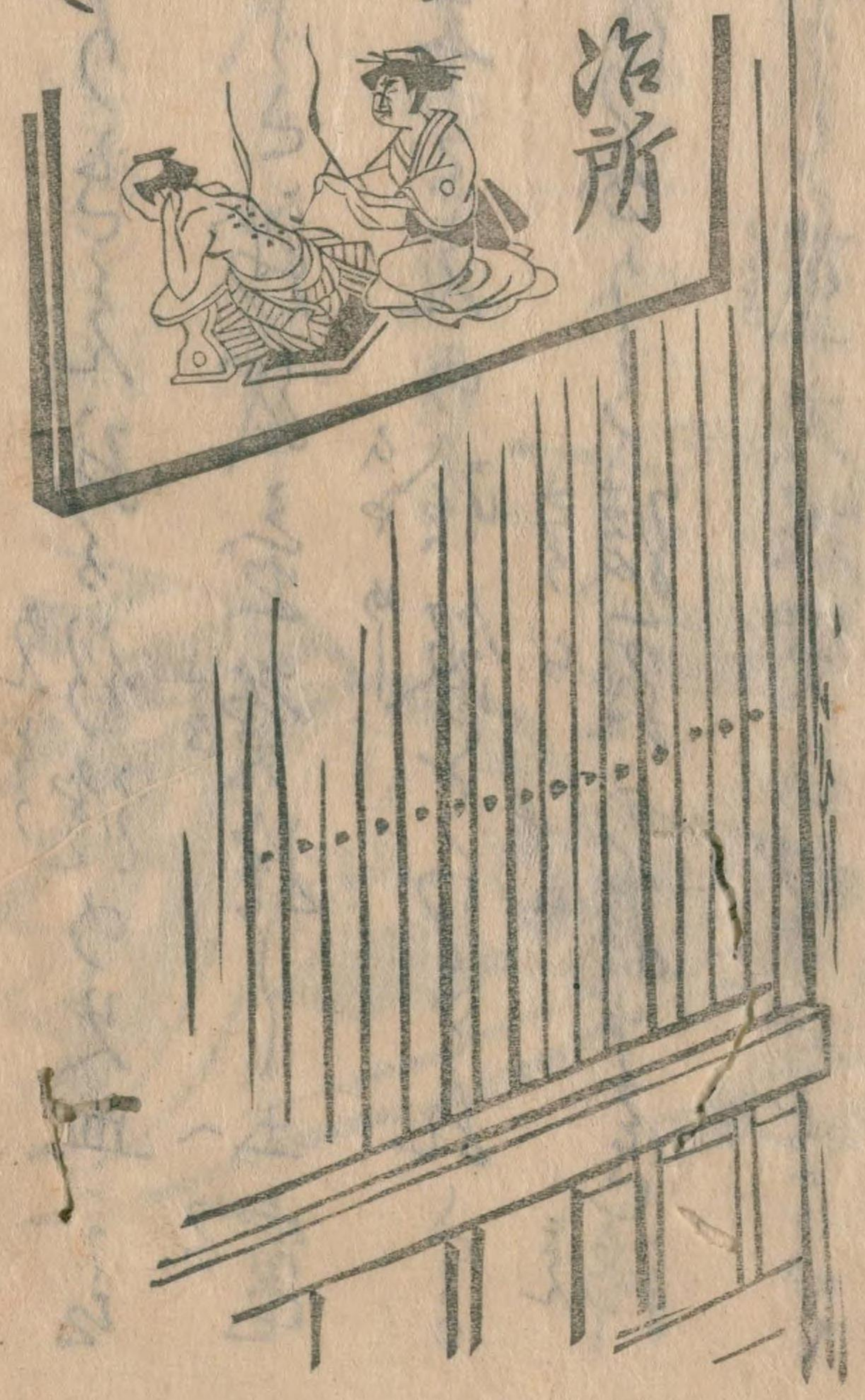
たの潔いさ

かやあたる女乃 治所

さ〜文^{ひら}と〜さ

さ〜月し^{ひら}と

春^{ひら}板よ^{ひら}と



おはるや〜んかた^{ひら}たるり〜ん性^{ひら}の

人〜も〜^{ひら}家^{ひら}ら〜ん

んぬあ〜あさつ〜^{ひら}屋^{ひら}を〜

美人^{ひら}ら〜ん〜^{ひら}美^{ひら}女^{ひら}を〜

あ〜ん人^{ひら}〜^{ひら}あ〜ん

老のあ〜^{ひら}ら〜^{ひら}あ〜^{ひら}

三つ編^{ひら}ら〜^{ひら}ら〜^{ひら}人^{ひら}な

花〜^{ひら}ら〜^{ひら}ら〜^{ひら}ら〜

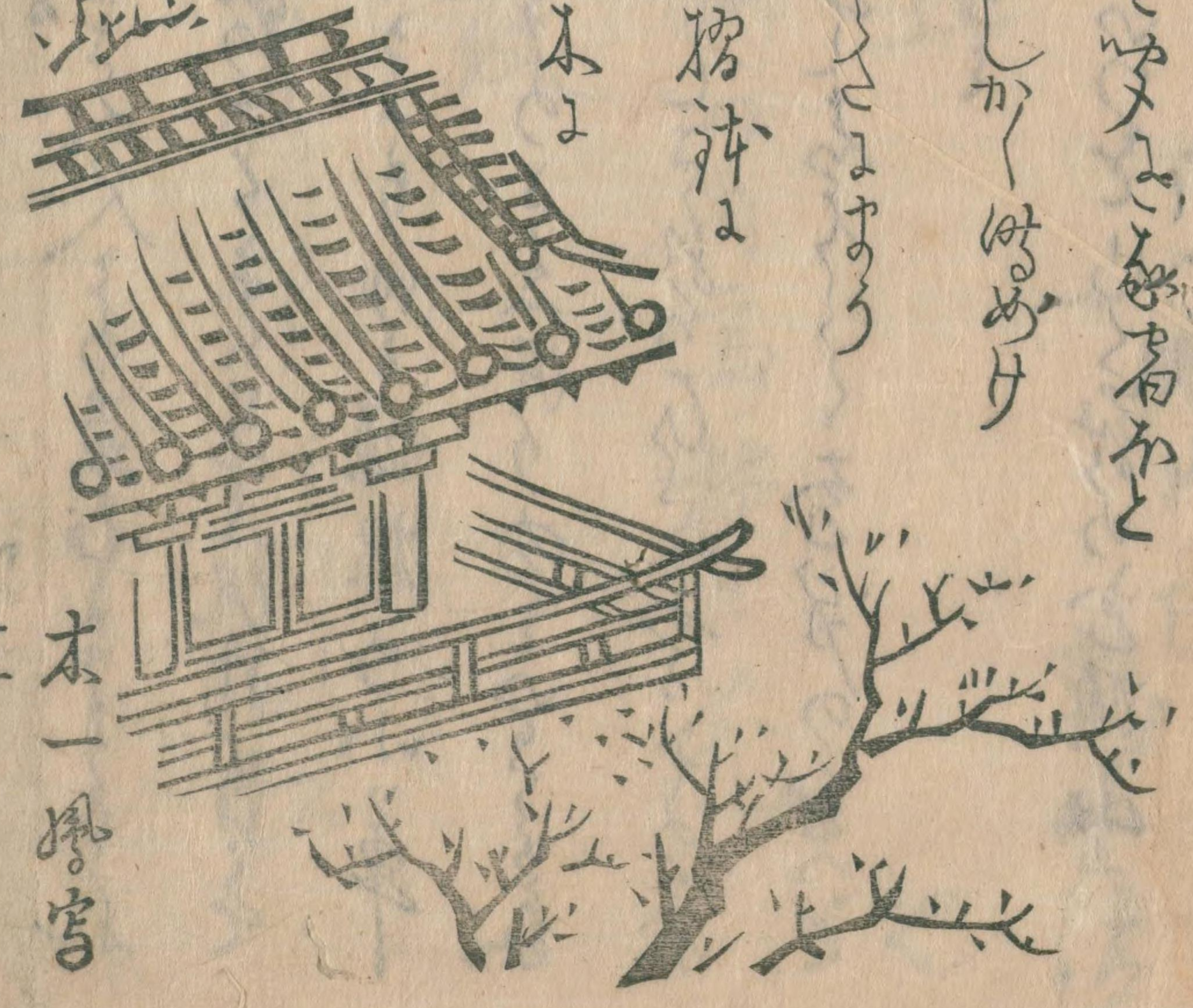
ののうしし後の^{おとめこ}おとめこの^{むすめ}むすめと^{おとめこ}おとめこ
 を女と^{おとめこ}おとめこの着^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 のうしし^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 よかを^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 誠^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 うく^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 吉^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 かの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 人の^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの

へよ一戸の^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 け^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 の^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 の^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 の^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 の^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 の^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの
 の^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの^{おとめこ}おとめこの

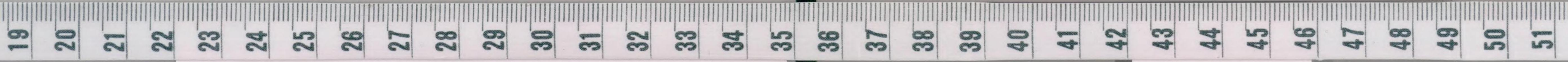


よこみしは雲をいそふ自在に戸の金
をそん一歩は梅の影の残るも
きのわらう詩この空りく連ふ乃友を
とちもいそをせしめん大さくの葉を
みしうあまうしうさせうがま小女わらわ統ひらあは乃
一子あはむ孫乃孫の孫たなひはあそ
いけらぬおのひそののれんも
此のた乃あは後ののりこをよか

あはれとんてまよふはあそ
そらうくあはあはしかあは
る妻乃具あいしよあう
けし調ど度もなぐ習なは
あはとほ習な小あよ
しひあそ
やうあそ
の飢うをまひふ



十一
本一風宮



858
60

入冬や雪の舞 門の松

除夜

元日や此城のうら 梅の花

歳旦

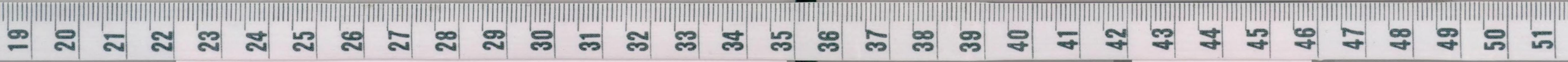
公女

寅

山色

萬重法衣

難考け跡乃解と人とのあはむまやうとれ
にあると流の案りかるとまゝにまゝに流しつとて
うら菴のまゝにうらまのゆる垣根の小草
の庭よよま啼きまのまゝに流りのまゝにま
ま乃表ありたりしとまゝにまゝにまゝに
跡跡生れまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝにまゝに



得加中山邑

渡邊氏

中山邑

中山邑

